

科目名	嚥下障害 I			授業の種類	演習	講師名	
授業回数	15 回	時間数	30 時間	1 単位	必修・選択	必須	配当学年 時期
							ST2年 前期
【授業の目的・ねらい】 摂食嚥下障害は、生命を脅かすだけでなく、本人および家族の生活の質を著しく低下させる。言語聴覚士（ST）は摂食嚥下能力の向上と、摂食嚥下に関する活動や参加への援助に携わる。この講義では、嚥下障害の基礎知識（解剖、生理）と評価・治療を学習し、STの役割と課題について学ぶことを目的とする。							
【実務者経験】 言語聴覚士として病院、歯科医院、訪問看護ステーション等に勤務、主に在宅分野にて高次脳機能障害（失語症含む）・嚥下障害・構音障害分野でのリハビリに従事。							
【授業全体の内容の概要】 摂食嚥下にかかわる器官と嚥下のメカニズム及び嚥下障害の原因となる疾病と外傷、嚥下障害の病態について理解し、それらに基づいた評価法および訓練内容の基礎を学ぶ。							
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 1. 嚥下にかかわる器官と嚥下のメカニズムを理解する 2. 対象者の病態・様態に関わらず摂食嚥下障害を評価するための知識を身につける 3. 摂食嚥下障害に対する治療法・リハビリテーションを理解する							
回数	講義内容						準備物(教材)
1	STの役割と摂食嚥下障害の概要						配布資料 教科書
2	嚥下のとらえ方（摂食嚥下機能と嚥下の5期モデル）						配布資料 教科書
3	嚥下にかかわる各器官（解剖）とその働き①						配布資料 教科書
4	嚥下にかかわる各器官（解剖）とその働き②						配布資料 教科書
5	嚥下にかかわる神経						配布資料 教科書
6	咀嚼について 成人の正常嚥下まとめ						配布資料 教科書
7	成人の摂食嚥下障害①						配布資料 教科書
8	成人の摂食嚥下障害②						配布資料 教科書
9	小児期の摂食嚥下障害						配布資料 教科書
10	嚥下障害の原因と分類、合併症、窒息時の対応						配布資料 教科書
11	摂食嚥下障害の評価法①						配布資料 教科書
12	摂食嚥下障害のスクリーニング						配布資料 教科書
13	摂食嚥下障害に対する検査の概要（嚥下造影検査と嚥下内視鏡検査）						配布資料 教科書
14	嚥下リハビリの概要（間接的嚥下訓練、直接的嚥下訓練）						配布資料 教科書
15	演習（言語聴覚士国家試験過去問）を通じて理解度を知る						配布資料 教科書
	定期試験						
【使用教科書・教材・参考書】 『嚥下障害ポケットマニュアル 第4版』医歯薬出版 『言語聴覚士テキスト 第4版』医歯薬出版							
【準備学習・時間外学習】 授業内容の復習を言語聴覚士テキストやポケットマニュアルで行っておく必要がある。講義内で確認テストを行う場合がある（ただし、あくまで復習を促すためであり、単位認定は下記の通り定期試験の成績で決定する）。							
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施し、60点以上の場合に科目を認定する。							